



校訓

理想は高く
心清らかに

教育
目標

未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい
生徒の育成 ～感性を磨き自立を育む教育～

後ろ姿の教育！



先日、母が87歳で亡くなりました。若くして戦争未亡人になり、実家に帰って農業を手伝いながら子ども二人を育てていたんですが、私の実母が亡くなったものだから、父の再婚相手としてこの前亡くなった母が我が家に来たんです。そして、私達兄弟を育て上げてくれました。

母の人生は楽よりも苦の方が圧倒的に多かったように思います。脳裏に残る思い出は苦労の場面ばかりです。経済的にも苦しかったので、少しでも家計の足しになるよう田畑を耕し、米や野菜などを作っていました。太陽がキラキラ輝く真夏の炎天下に田に入り、全身水を浴びたように汗まみれになって、這いつくばって田の草を取っていました。今でもその姿が目には焼き付いています。

豚も飼っていましたので、餌になる焼酎カスをもらうために毎週リヤカーにドラム缶を積んで、多良木の堤酒造まで出かけておりました。かなりの重量ですので、母一人ではリヤカーを引っ張るのが大変でしたから、私や弟たちも手伝っていました。当時道路はまだ舗装してなかったので、ガタガタ道のくぼみにタイヤが入り込むと抜け出すのは一苦労でした。「せーのっ！」とかけ声をかけて、母は引っ張る、私と弟は後ろから押す。非力な子どもと女の力ですから一回ではなかなか抜け出せず、顔を真っ赤にして繰り返し繰り返し後ろから押ししました。やっと抜け出した時の喜びはなんとも言えない感動でした。

働きずくめの毎日で、夜は夜で何だったか忘れましたが、ちょっとした内職もやっていました。そういうことを考えると、ほんと、あのころの母の楽しみって何だったんだろうと思います。テレビもなかったしですね……。ただ一つ覚えているのは多良木に3軒映画館がありましたので、年に1、2度見に行っていました。三本立てで50円とか、やりましたから。

自分の実子も含めて5人の子どもを苦労に苦労を重ねて育て上げてくれました。つらいことも多々あったことと思いますが、一言の愚痴も聞いたことはありません。すべてを自分の胸に納めて人生を全うしていきました。身内のことを言うのもなんですが、偉いと思います。人生の師として心から尊敬しています。

母の人生の最期には、これまでお世話になったことへの感謝と御礼の意を込めて、万感の思いで「ありがとう！」を言いたかったのですが、突然の死でそれもありませんでした。今は仏壇の前で手を合わせ「ありがとう！」を唱える毎日です。

母から学んだことは、親として苦労はあっても、ひたすら一生懸命に生きる姿を見せることが、子どもに対して最大の教育であるということです。お父さん、お母さん、前を向いて一生懸命に生きましょう。